

日光採集旅行ノ記

會員 理科二年生 辻村みちよ

五十四

明治四十三年七月九日ヨリ三日間我理科二、三年生ハ矢部保井平島三先生ノ御指導ノモトニ日光地方ニ修學旅行ヲナシヌ。生徒監トシテハ佐方先生オハシ給ヒキ。

茲ニ後ノ思ヒ出ニモトテ日記様ノモノヲ認ムル事トシヌ。不文敢テ當ラズト雖モ諸姉ノ御參考ノ一端トモナラバ幸ナリ。

九日午前三時半起床、五時出門、五時四十五分上野發、仙臺行ノ列車ニ乘リ宇都宮ニテ日光行ニ乗換ヘ少シ早カリシカド瀛車中ニテ晝食ヲ濟マセ十時半日光驛ニ着ス。

停車場前ナル神山旅館支店ニテ暫時休憩シ徒步採集ノ準備ヲナス。栗橋驛邊ヨリ雨降り出デシガ止ムベクモアラザリシカバ袴ヲトリ合羽ヲ着シ下駄ハ此家ニ托シテ草履ニ改メ紐モテ脚ニ結ヒ付ケ採集胴籠ヲ肩ニ根堀リ、木鋏、手帳、鉛筆、名箋、油紙二枚、袋、雜品入、油紙袋、紙袋數個、洋傘、手拭、布呂數ナド夫々携帶シテ十二時ニ此所ヲ出立チヌ。

是等ノ携帶品ノ外ナル押板、吸取紙、麻紐、單衣、羽織、襦袢、足袋等ハ別ニ一纏メトシテ馬又ハ車ニテ宿ニ届クル様計ラハセ給ヒキ。

鉢石町ヨリ神橋ヲ經テ大谷川ニ沿ヒテ道ヲ新道ニトリキ。橋ヲ渡ルヤ直チニ右方ノ岩間ニテいはさんばいヲ採ル黃色ノ花美シク次ナルまたたびハ白梅ニ似テ床シカリシカド花ノ落チヤスキニ

ハ困ジヌ。含滿淵ニ至レバ在リシ様ニ似ズト聞クモ尙思ヒシニマサレル其流レ、壯快イハン方無カリキ。

鉢石、馬返間ハ所謂山麓帶ニ屬スル地帶ニシテ所生ノ植物ニ著シキモノ多カラザルモふじあざみノ大ナル葉ノ如キ眼ヲ惹クモノノ一ナリキ。此所ニテ採集セシ植物ハ。

ふぢうつぎ、おほなるこすげ、きぬたさう、あぶらしば、こあかそ、きやうがのこ、のろうつぎ、とりあししようま、たちどころ、のざらん、べにがく、かんぼく、すみ、くるまばな、こめがや、やませり、くましで、こあちさる、ぎようじやのみづ、つりばな、はたるぶくろ、やまばうし等。

清瀧邊ヨリかへで稍多クナリ來リヌ。馬返ニツキシハ午後三時ニテ細雨降リシキリヌ。鉢石町ヨリ人力車ニ乗ラレシ數名ノ方々ト此處ニテ相會シ胴籠ノ中ナル採集品ヲ出シ油紙包ミトシテ脊ニシ名物力餅ニ前途ヲ祝ス、元氣イトヨシ、踐ミ破リタル草履ヌギ棄テテ草鞋ヲハキヌ。足思ハズ進ミヌ。

道急勾配トナリテ愈日光ノ本部ナル喬木帶ニ入ル樹木ハ重ニ潤葉樹ニシテ溫帶中部ニ普通ナルモノナリ。再ビ大谷川ニ沿ヒテ進ム此所ヨリ深澤マデ一方ハ崖一方ハ大谷川ナリ大谷川海苔ハ音ニノミ聞キテ坂ヲ上リ劔ヶ峯ニ至ル磐若ノ瀧ハ雨ニ隠レテ只彼方トノミ教ヘラル。方等ノミ稍ソ

レト認メラル「アラハナルヨリ趣深シ」ナド云フ聲モ聞エヌ。

篠ツク雨ヲ侵シテ採集シツツ行クぶな、やしやぶし、ふさぎくら、かへでノ類等ノ潤葉樹鬱蒼タル中ニあさがら、ばいくわうつぎノ白花ヲ點ゼル様美シクみやまからまつ、ひめへびいちご、まひづるさう、きつりふね等ノ木蔭ニ見ユルモ嬉シク中ノ茶屋ニ達セシハ五時頃ト覺ユ小憩シ油紙包ミヲ人力車ニ托ス。此所ニテやまおだまきノ自生セルヲ見タリ。

大平ニ達スレバ平坦ナルコト名ノ如ク道ノ左右ハ皆樺林ナリ。樹幹ニ地衣多ケレバトテ右ノ方ニ分ケ入リテ索メタレド日漸ク暮レテ雨サヘ加ハリタレバ物ノ黑白モ定カナラズシテ獲物モハカバカシカラズ出デテ林中ヲ進ミ中禪寺湖畔ナル米屋旅館ニ着セシハ七時三十分頃ナリキ。

食事入浴ナド終ヘ各自採集物ノ整理ヲナス室内忽草原ト化シ其周圍ニ我等居ナラビ先生方ハ中央ヲ往來セラレテ我等ガ質問ニ答ヘ給ヒヌ植物ヲ吸取紙ノ間ニハサムコト常ノゴトク、タダ石ヲ以テ壓スル代リニ壓搾板ニハサミテ堅ク締め置キヌ。

此日馬返ヨリ中禪寺間ニ採集セシ植物ハ

ふさぎくら、ばいくはうつぎ、あさのはかへで、あをはだ、さはしば、うりはだかへで、なつづばき、みやまからまつ、ひめへびいちご、あぶらつつじ、みやまはんのき、おほはうちはかへで、えんれいさう、やしやぶし、きつりふね、はしばみ、つのはしばみ、あさがら、やまほとと

ぎす、うるし、にしきうつぎ、はんしようづる、はうちはかへで、いたやかへで、なつはせ、はくさんをみなへし、こばのとねりこ、ごえふつつじ、はりすげ、うぐひすかぐら、やぶれがさ、うこぎ、みやまくまやなぎ、かのつめさう、ひとつばかへで、さるなし、めぐすりのき、はりもみ、うりのき等。

凡テノ整理ヲ終ヘテ寢ニツキシハ十二時過ナリキ雨益々烈シク明日ノ天氣ヲ氣遣ハレヌ。

十日、午前五時半起床、昨夜ノ雨名殘ナク晴レテ中禪寺湖畔ノ景色清シ。支度ヲ終ヘテ朝餐前ニトテ平島先生ニ伴ハレテ華嚴瀧ヲ見ニトテ行ク宿ヨリ借リシ例ノ日光下駄ノ穿キ難キモ興ノ一ツト途ヲイソグ。

實ニ我等數名ハ今朝ノ先登第一ナリシヨ、名ノミニアコガレシ瀑布モ今ハ眼下ニ一刷ノ霧サヘナク一眸ノ下ニ收メ得シハ嬉シク藍色シテ落下スル水ノ白沫ト化スル邊リニ岩燕群リ飛ブト見ル中ニ左方ノ溪ヨリ霧立昇リ瀧壺ヲカクシ岩燕益々數ヲ増シ興愈加ハルヲ惜シミツツ歸途ニツク。

佐方矢部二先生ノ來リ給フニ道ニアヒマツル保井先生ハ宿ニ止リ給フト。

朝食後九時ニ出發關伽沼原ニ向フ今日ハ袴ニテ草鞋ガケナリ携帶品ハ昨日ノ如シ中禪寺湖ニ沿ヒテ進ム昨日ハ尠カリシやまをだまき漸ク多ク果實ノミナリシまひづるさうは花盛リニさらさだうだん、あぶらつつじナドモ花ノ盛ナルひめへびいちご、たかねすげナドノ加ハリ行ク等山ノ高

キヲ加フルト共ニ植物景ノ變化シ行ク様見エテ面白ク高地ニ見ル蝶ノ叢リ飛ブモ興深シ菖蒲ヶ濱ヲ過ギ尙行キ行キテみづならノ純林ニ入ルコハ本州中部ニテハ三、四千尺以上ノ高所ナラネバ見ルヲ得ザルモノナリト、青葉ノ蔭涼シク湖中ニ放養セル鱒等ノ養殖ヲ主トセル養魚場樹間ニ見エレド先ヲ急グ身ハ心此所ニ止マラズ地獄澤ノ橋下ニテうのばちもヲ採ル龍頭瀧ニテ小憩茶屋ノ前邊ニテたけしまらん、うすのきヲトル是ヨリ稍登リ行クわうれんつつじ今ヲ盛ナリ今日歸ル身ナラマシガバ家苞ニモセマホシ。つまとりさう、くろみのうぐひすかぐらナド採リツツ行キテ道ノ邊ナル茶屋ニテ少憩ス丸木橋ヲ渡リ飛沫衣ヲウツ所ニテ憩ヒシハ愉快ナリキ。此茶屋ノ表ニ大猿ノツナガレタルニ友ノ誰彼近ヨリテ見シ様ノ思ヒ出デラルルヨ。

此所ヨリ戰場原ニ到ル途中ひめしだ茂レル中ニやまどりせんまい、おにせんまいナドニ交リテあかぬまふうろ、わうれんつつじ、あかぬまあやめナドノ色美シキアリやなざらんノ荅多キニ其開花ノ時ヲ偲ビヌうめばちさうヲ一モト見出スヲ得タリ原ノ入口ノ茶屋ニテ先生えぶりこヲ購ハル食パンニ似タリナド云ヒツツ廻シ見タリ此所ニテ晝食シ後原中ノ採集ヲ初ム。

手拭、襷、甲斐々々シク草鞋踏ミシメタル我等四十餘人ノ様古戰場ヲ想見セシムルモノアリ此ノ原ニハ落葉松ノ散在セル外樹木ノ眼ヲ遮ルモノナクみづごけノ繁茂セル間ニこけもも、つるこけもも、ひめしやくなげ等ノ石南科ノ小植物又ねばりのざらん、じやかうちどり、みづちどり等

點在シわたすげ、さぎすげ白ク風ニ靡キいぬすぎな叢ガリ立ちもうせんごけ亦みづごけノ間ニ生ヒはなごけノ群マタ多シ我等ガ此日ノ旅行ノ最終點ニ達セシハ午後三時ニシテはさきしもつけ即あかぬましもつけヲ採ル是ヨリ湯本ハ中宮祠ニ歸ルヨリ近シト限リ短キ旅ナラザラマシカバ。

仰ギテ男体山ヲ望メバ火山ノ「タイプ」ヲ失ハザル圓錐形態美シクはりもみ、つがノ密林ヲ以テ覆ハル様心地ヨシ此所ヨリ歸途ニ就キしらかんば、みづならナド採リツツ六時過宿ニ着キヌ。

此夜整理ノ様前夜ニ同ジク先生ヨリしようきらん、めんま、いぬえんじゆヲ願タルしようきらんハ針葉樹林ノ腐葉土中ニ生ジ一屬一種ニシテ我國ニ産スルモノアルノミ *Yonia Japonica Maxim.* ナル學名ヲ有ス是實ニ我國ニ於ケル植物學ノ鼻祖トモ稱セラルベキ幕末ノ植物學者宇多川榕庵先生ヲ記念センガ爲メニ其名ヲ以テ呼バルモノナリ。蘭科ニ屬シ萼ノ外方ノ先端ハ濃キ紅紫色ニシテ此上ノ線モ同色ナリ内部ハ白ク三枚ノ花瓣中下唇ハ特別ノ形ヲナシ前方ニ向ケル距ヲ有ス他ノ二瓣ハ萼ヨリ小ナリ。

此日採集セシ植物凡ソ七十餘種アリ。

はいくわも、たけしまらん、うすのき、ほそばいらくさ、わちがひさう、まひづるさう、うめばちさう、しらかんば、くろいちご、やまどりせんまい、こけもも、つるこけもも、ひめしやくなげ、わたすげ、さぎすげ、みづごけ、すぎごけ、もうせんごけ、いぬすぎな、からまつ、ねば

りのぎらん、みづちどり、かはすすげ、につくわうはりすげ、ほぎしもつけ、まるばいはがさ、おとぎりさう、あかぬまふうろ、あかぬまあやめ、わうれんつつじ、いぶきとらのを、すずたけ、くるまゆり、みやまおだまき、つが、まんねんすぎ、つまとりさう、ひめいちげ、こごめぐさ、ななかまど、つたうるし、やはすはんのき、ぶなのき、かつら、みねかへで、さはふたぎ、こがますみ、かまつか、しろばなへびいちご、はりぎり、やまはたさを、やまははこ、あきぐみ、みやますすめのひえ、こけみづ、こぬかくさ、ちだけさし、なみきさう、くろみのうぐひすかぐら、うつぼうさ、おにすげ等。

整理ノ半ニシテ暫ク休憩シ後凡テヲ終ヘ明日出發ノ用意ナドシテ寢ニ就キシハ午前一時ナリキ十一日、曇、起床午前五時出發前中宮祠ニ詣ヅ午前七時出發歸途ニツキヌ。太平ニテ地衣ヲ少シク取り其レヨリ先生ノ御話ヲ伺ヒツツ進ム。うはみづぐら、いぬぶな、ぶな、おほかめのき、のきしのぶ等ヲ採リヌやまぶきしようまハ葉細カクとりあししようまハ花明瞭みやまなるこゆりハなるこゆりニ比シ葉ノ裏白ク幅廣シ、だんこうばいハ樟科まつぶさハ木蘭科ニシテ實黒ク（此ハ採集セザリキ）くろかんばハ鼠李科ニシテしらかんばハ樺木科ナリナド種々教ヘ給ヒキ。

中ノ茶屋ニテ休憩此日ハ劍ヶ峯ニテ空晴レ渡リタレバ磐若方等ノ二瀑其全容姿ヲ我等ニ示シヌながばのこやばうき、えぞすみれ、やぐるまさう、つるでんだ、だいもんじさう、いはたば

こ、ふくろしだ、れんげしようま、やまがらし等我採集胴盤中ノ物トナリス。榮橋ニ於テみぞほはづき、いはあかばなヲ採ル先生等危険ヲ冒シテ我等ノ爲メニしらぬやなぎヲトラセ給ヘリ。

馬返ニテ休憩ス時ニ午前十一時うちやうらん、しらぬやなぎヲ頒タルくさばたん、うりかへで、みつでかへで、なんきんななかまどヲ採リ先生ヨリしなのきヲ戴キ其レヨリ神橋ヲ經佛岩ナル帝國理科大學ノ附屬植物分園ニ至リ休憩、清流ニ嗽ギ晝食ヲナシ高山植物ヲ觀其御説明ヲ伺ヒヌ。此園内ナル高山植物ハ白根、女貌、八ヶ嶽等ヨリ移植セラレシモノニテ黄紫紅白妍ヲ競ヘル様美シク且我等ガ此行ニ於テ得ル能ハザリシ草本帶ニ屬スル植物ノ知識ヲ得シハ幸ナリキ。此所ニテ觀察セシ植物ヲ舉クレバ

おほばいけいさう、百合科有毒

おさばぐさ、罌粟科日本特有ししがしら、おさしだニ似タリ八ヶ嶽ヨリ移植サレシモノ

むしとりすみれ、狸藻科

ちんぐるま、薔薇科羽狀複葉信州八ヶ嶽駒ヶ嶽等高山ノ絶頂ニアリ

しらねあふひ、毛茛科日本特産白根山ノ高所ニ産ス

をのへらん、蘭科距丸シ

つがざくら、石南科こけもト同所ニアリ

いはよもぎ(いはいんちん岩菌蘚)女貌山ヨリ移植

いはひげ、石南科蘚ニ似タリ高山ノ岩ニツケリ

はくさんちどり、蘭科

うらじろやうらく、石南科

うるつぶさう、玄參科大ナル肉質ノ丸葉ヲ有ス千島群島中得撫島ニ産スルヨリ此名アリ

うめばちさう、虎耳草科

ししがしら、水龍骨科

いはわうぎ、荳科

はひまつ、松杉科女貌ノ産

そばな、桔梗科花ノ色藍

びらんじ、石竹科花紅紫色華嚴瀧ノ邊ニ生ズ

いときんぼうげ、毛茛科

えんびせんのお、石竹科緋色ノ花八甲田山ヨリ移植

はまなす、薔薇科複葉刺アリ

くじやくしだ、水龍骨科

記念ノ撮影ヲスマセテ直ニ御廟ヲ參拜シ三代將軍ノ奥ノ院ノミ省キテ一時間程ニテ見物セリ。

神山旅館ニ立寄り旅装ヲ改メテ停車場ニ至リ午後五時半發車宇都宮ニテ東北ニ歸ラルル人數名

ト別レ車中ニテ夕食ス、大宮邊ヨリ雨降リ午後十一時上野着徒歩ニテ歸校ス。

此旅行ニテ我等ノ採集セル植物ヲ列舉スレバ略次ノ如キモノナリ

裸子類

松杉科 はりもみ、つが、からまつ、もみ

被子類

單子葉門

禾木科 やまかもじぐさ、こめすすき、すすたけ、こぬかくさ、こめがや、ほかへりがや、

みやますすめのひえ、いぶきぬかほ

莎草科 おほなるこすげ、あぶらしば、はりすげ、わたすげ、さぎすげ、かはすすげ、につ

くわうはりすげ、おにすげ、がうそ、あせすげ、たにすげ、ぬまはりゐ、たかねすげ、

くろすげ、やちすげ

燈心草科 みやますすめのひえ、いとゐ、かうがひせきしやう

百合科 やまほととぎす、しゆろさう、のぎらん、ねばりのぎらん、えんれいさう、たけし

まらん、くるまゆり、まひづるさう、やまかしう、ゆきさる、みやまなるこゆり。

薯蕷科 たちどころ

鳶尾科 あかぬまあやめ

蘭科 みづちどり、てがたちどり、しょうきらん、うちやうらん、あをちどり、ちがばちさう、くもぎりさう、あさひらん

双子葉門

離瓣花區

柳楊科 しらぬやなぎ、たちやなぎ、こりやなぎ

樺木科 くましで、さはしば、みやまはんのき、やしやぶし「はしばみ、つのはしばみ、しらかんば、やはすはんのき

山毛櫨科 ぶなのき。いぬぶな、みづなら

蕁麻科 こあかそ、あかそ、ほそばいらくさ、こけみづ、みづ

蓼科 いぶきとらのを、くりんゆきふで、いたどり

石竹科 わちがひさう、おほやまふすま

雲葉科 ふさぎくら、かつら

毛茛科 みやまからまつ、はんしようづる、ばいくわも、ひめいちげさう、やまおだま

れんげしようま、くさばたん、しらねあふひ、みやまきんぼうけ

小蘗科 めぎ、へびのぼらす

樟科 だんこうばい

十字花科 やまがらし、やまはたぎを

茅膏菜科 もうせんごけ

虎耳草科 のりうつぎ、とりあししようま、べにがく、こあぢさゐ、ばいくわうつぎ、うめばらさう、やぐるまさう、だいもんじさう、ちだけさし、いはがらみ、ゆきのした、

たまあぢさゐ、やしやびしやく

金縷梅科 まんさく

薔薇科 いはきんばい、きようがのこ、すみ、ひめへびいちご、くろいちご、ほぞさしもつけ、しもつけ、まるばいはがさ、ななかまど、なんきんなかまど、かまつか、うはみづぎくら、やまぶきしようま、のいばら、いはがさ、しろばなへびいちご、もみぢいちご、にがいちご

荳科 いぬえんじゆ

牝牛兒科 あかぬまふうろ、みつばふうろ
 大戟科 たかとうだい
 漆樹科 やまうるし、つたうるし
 冬青科 あをはだ
 衛矛科 つりばな、つるうめもどき
 槭樹科 あさのはかへで、うりはだかへで、おほはうちはかへで、はうちはかへで、いたや
 かへで、ひとつばかへで、めぐすりのき、うりかへで、みつでかへで、みねかへで、
 かぢかへで、あさひかへで
 鳳仙花科 きつりふね
 鼠李科 みやまくまやなぎ、くろかんば、くまやなぎ
 葡萄科 ぎょうじやのみづ、やまぶだう
 田麻科 しなのき
 獼猴桃科 さるなし、またたび、みやまたたび
 山茶科 なつつばき
 金絲桃科 おとぎりさう

莖菜科 えぞすみれ、しはいすみれ
 胡頹子科 あきぐみ
 柳葉菜科 いはあかばな、やなぎらん
 五加科 うこぎ、はりぎり、こしあぶら、たらのき
 繖形科 やませり、かのつめさう、うまのみつば、せんとうさう
 山茱萸科 やまばうし
 合瓣花區
 令法科 りやうぶ
 鹿蹄草科 いちやくさう、ぎんりやうさう
 石南科 あぶらつつじ、なつはせ、むえふつつじ、うすのき、こけもも、つるこけもも、ひ
 めしやくなげ、わうれんつつじ
 櫻草科 つまとりさう、おかとらのを
 灰木科 さはふたぎ
 齋藤果科 あさがら、はくうんぼく
 木犀科 こばのとねりこ、いぼたのき

馬錢科 ふちうつぎ

馬鞭草科 むらさしきぶ

唇杉科 くるまばな、うつぼぐさ、かめばひきおこし

玄參科 こごめぐさ、なみきさう、たつなみさう、みぞほほづき

苦苣苔科 いはたばこ

茜草科 きぬたさう、まるばのよつばむぐら

忍冬科 かんぼく、にしきうつぎ、うくひすかぐら、こがますみ、くろみのうぐひすかぐら、

おほかめのき、すひかつら

敗醬科 はくさんをみなへし

桔梗科 ほたるぶくろ

菊科 やぶれがさ、やまははこ、ながばのこうやばうき、いぬよもぎ、ほそばのをとこよ

もぎ、めなもみ、ふくわうさう、しろばなにがな、もみぢはぐま、めたからこう、は

んくわいさう

薔苔類

土馬蹄門 すぎごけ、みづごけ

羊齒類

羊齒門

水龍骨科 いぬしだ、くじやくしだ、うさぎしだ、くまわらび、めんま、ふくろしだ、のき

しのぶ、つるでんだ、わうれんしだ、いはでんだ

薇科 やまどりせんまい、おにせんまい

木賊門

木賊科 いぬすぎな

石松門

石松科 まんねんすぎ

地衣類 さるをがせ、よろひごけ、かぶとごけ、あはびごけ、からくさごけ、もじごけ、はなご

け、ステレヲカウロン屬等

本會記事

本會第十七回ハ十月一日午後一時ヨリ本校第二講堂ニ於テ開會セリ演題左ノ如シ尤脇水講師ハ當日御差支ノ爲メ青山會員ハ時間ノ許ササル爲メ休演セリ